

7 総括

最後に、本調査地における土地利用の変遷を整理し、まとめとする。

古墳時代:時期が比定できる遺構は、102 井戸、116 土坑、110 ピットで、121・124 土坑もおおよその時期をうかがうことができる。建物など明確な居住遺構は検出できなかったが、102 井戸の存在と、当該時期の土器が 102 井戸・110 ピットからまとまって出土しているため、集落の縁辺部または周辺に集落が存在したと考えられる。本調査地付近は西除川の自然堤防・氾濫原に位置しており、微高地を利用した集落を想定できよう。

出土遺物については、914 点中 890 点が土師器で、それ以外は極少量であった。また、遺物の大半が細片である。須恵器は 15 点のみで、包含層を除くと 102 井戸と 12 溝から出土した。遺物の年代から、古墳時代の遺構は中期に帰属するとみられる。

今回の調査によって、堀遺跡における人々の活動が古墳時代中期にさかのぼることが明らかとなった。

平安時代～中世:掘立柱建物 1・2 の 2 棟、66 土坑を検出した。調査地は集落の一部にあたると考えられる。掘立柱建物 2 棟の主軸は類似しており、柱穴の規模からも同時併存か近い時期と想定される。構成する柱穴から時期を比定できる遺物は出土しなかったが、掘立柱建物 2 は 9 世紀前半～9 世紀中頃に比定される 66 土坑との切り合い関係からそれ以降といえる。ただ、柱穴の規模か

ら中世まで下る可能性もある。

大阪府教育委員会の調査（大阪府教委 2010）では B 区で 9 世紀後半～10 世紀中頃の木柵をもつ井戸、A 区で 13 世紀初頭～前半頃の井戸が見つかっており、付近に集落の存在が推定されている。本調査で新たに得た資料は、集落の広がりや複数の地点での集落の存在を今後検討するための一助となる。

なお、既往の調査では奈良時代後期以降の畦畔など水田に関わる遺構が検出されているが、本調査では確認できなかった。

近世以降:調査区土層断面に耕作土とみられる土層の累積が認められることから、近世以降は耕作地に転換したと考えられる。詳細な時期は不明だが、昭和 17 年(1942)の航空写真には建築物が確認できるため、それ以前に耕作地としての土地利用が終了したとみられる。

堀遺跡における本発掘調査は今回が第 3 次であり、今後の調査事例の増加に期待したい。

引用・参考文献

大阪府教育委員会 2010『堀遺跡』

笹栗拓 2017「津堂遺跡における古墳時代中期の土器編年—古市古墳群周辺集落の土器様相とその特質—」『大阪文化財研究』第 50 号（公財）大阪府文化財センター

辻美紀 1999「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室 10 周年記念論集—』大阪大学考古学研究室

表 1 非掲載遺構一覧表（1）

遺構番号	平面形	断面形	長軸	短軸	深さ	切り合い関係		出土遺物	備考
			(cm)	(cm)	(cm)	切る遺構	切られる遺構		
01	ピット	楕円形	28	21	24	02		土師器	
05	ピット		(30)	(30)	14			無	
06	土坑	楕円形	173	91	6		03	無	
08									欠番
09	ピット	円形	40	36	11			無	
10									欠番
11	ピット	円形	38	34	21			無	
14	溝	溝状	257	12	16	18・19		無	
15	土坑	楕円形?	57	(50)	13		13	無	
16	土坑	楕円形	85	(63)	7		17	無	
17	土坑	不整楕円形	(200)	109	9	16		土師器	
18	土坑	楕円形	70	47	5		14	無	
19	土坑	不整楕円形	(135)	105	7		13・14	無	
20	土坑	楕円形	(200)	(105)	5	104	12	無	
21	ピット	円形	32	27	23	13	12	土師器(襷)	
22	ピット	楕円形	45	36	34			無	
23	ピット	円形	(46)	41	10		12	無	
24	ピット	円形	6	6	5			無	
25	ピット	楕円形	8	6	12			無	
26	ピット	円形	9	7	6			無	
27	ピット	楕円形	8	6	5			無	
28	ピット	楕円形	8	5	12			土師器	
29	ピット	円形	8	8	17			無	
30	ピット	円形	10	10	14			無	
31									欠番
32	ピット	楕円形	10	7	5			無	
33	ピット	楕円形	12	7	10			無	
34	ピット	楕円形	10	8	6			無	
35	ピット	楕円形	10	9	3			無	
36	ピット	円形	10	10	6			無	
37	ピット	円形	13	13	5			無	

※遺構法量の()は残存値または推定値